

教 科	国 語	科 目	論理国語	単位数	2
学 年	2 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新編 論理国語（東京書籍）			
副教材（出版社）		新編 論理国語学習課題ノート・小説三選付属版（東京書籍）			
授業の概要		1 講義やグループ活動を通して、論理的な文章や実用的な文章の読み方を学ぶ。 2 論点を整理して読み、自分の考えを深めて論述したり討論したりする。			
授業の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力、創造的に考える力を伸ばす。			
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）	学 習 目 標		
	1 学 期	・論理とは何か（論理の力） 1 広がる風景 ・対話とは何か ・論理の力を鍛えよう 2 考える手がかり ・少女たちの「ひろしま」 ・つなげる力（論理の力）、論証する力（論理の力）、要約する力（論理の力）、言葉の扉① 3 人間と知性 ・学ぶことと人間の知恵 ・資料を整理し、テーマで吟味しよう	・言葉と言葉が的確に関連し合う「論理」の重要性を理解する。 ・筆者の考える「対話」の意義について理解を深める。 ・筋道立っている文章に必要なものを理解する。 ・筆者の主張を踏まえ、戦時下の人々の日常やその時代の社会と自分との接点について考えを深める。 ・問いと答えの構造に注目して、中心的主張を的確に捉える。 ・本来とは異なる意味で用いられやすいことわざや慣用句について理解する。 ・学ぶことの意義について、筆者の主張を「コンピューター」と「人間」を比較したうえで読み取る。 ・資料を整理して立場の違いによる主張や論拠の違い、問題意識の違いなどを対比的に検討する。		
	2 学 期	・ラップトップを抱えた「石器人」 ・文章を読み比べるために 4 現実の中で ・思考の肺活量 ・考える楽しみ① 5 ものの見方 ・弱肉強食は自然の摂理か ・複数の「わたし」 ・質問する力（論理の力）	・事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。 ・文章の読み比べ方を学び、複数の文章を比較して考えを深める。 ・論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。 ・筆者の主張と例示の関係を理解する。 ・論理的文章の内容を検討させ、観点を押さえた適切な質問を考える。 ・言葉の持つ可能性と限界について考える。 ・実験結果と筆者の主張を整理して、論理の展開方法を理解する。 ・筆者の主張を読み取ったうえで、その根拠の妥当性を検討する。		
	3 学 期	6 はたらくよろこび ・はじめに「言葉」がある、 ・楽に働くこと、楽しく働くこと ・鉄、千年のいのち ・言葉の扉②	・筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ・「働くよろこび」について、筆者の考えを踏まえたうえで自分の考えをまとめる。 ・新しい抽象概念を表すカタカナ語について理解を深める。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしているか。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりに、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教 科	公 民		科 目	公 共	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新版 公共（数研出版）				
副教材（出版社）						
授業の概要		教科書に沿って、現代の諸課題の概念や理論について理解する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会の諸課題の解決へ向けた認識を深める。				
授業の目標		人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代思想 第2節 現代の諸課題と倫理 第5章 現代の経済社会 第1節 経済のしくみと市場		・社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、先人の知恵や取り組みなどを踏まえ、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが重要であると理解する。 ・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。		
	2 学 期	第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現 第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理 第4章 現代の民主政治 第1節 日本の政治機構 第2節 民主政治の課題		・少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることを理解する。 ・よりよい社会は、憲法の下個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。		
	3 学 期	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題 第3節 国際経済の動向		・主権国家が並び立つ国際社会がどのように成り立っているのかを理解する。また、国際社会や国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。		国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		数 学		科 目	数 学 A	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		最新 数学 A（数研出版）					
副教材（出版社）		パラレルノート 数学 A（数研出版）					
授業の概要		場合の数と確率では、条件つき確率まで学習する。整数の性質ではユークリッドの互除法を使い、応用問題にも対応できるように学習する。図形の性質は平面の性質から空間の性質を考えられるように学習する。					
授業の目標		数学では自ら考え、かつ実際に計算や推論をしないと数学の考え方が身につかない。例題から練習問題を通して、応用問題にも、強いられてするのではなく、数学のもっている面白さにつられて自然に挑戦する態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学 習 内 容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 第 2 節 確率			・ 樹形図などを利用した個数の数え方について学び、また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場合なのかを理解し、各場合に適切な応用ができるようにする。独立試行の典型的な例であり、最も重要な例でもある反復試行の確率を理解する。このとき、組合せを用いることを理解する。 ・ 具体例を通して、条件付き確率と乗法定理の考え方を理解する。		
	2 学 期	第 2 章 図形の性質 第 1 節 三角形の性質 第 2 節 円の性質 第 3 節 作図			・ 三角形の内角の二等分線と比の定理を理解する。三角形の重心、外心、内心の関係を理解する。 ・ チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用できるようになる。 ・ 円の接線と弦のつくる角の定理を理解する。方べきの定理を理解する。2つの円の関係を理解し、その共通接線に関する問題に活用できるようになる。平行接線の作図やその応用ができるようになる。 ・ 空間における直線や平面の位置関係について理解する。多面体の性質を理解する。		
	3 学 期	3 章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 1 次不定方程式 3 記数法 4 座標の考え方 5 ゲームパズルの中の数学			・ 整数の性質を利用し、倍数の判定の仕方を学び、その方法を習得する。素因数分解を利用した最大公約数、最小公倍数の求め方を理解する。ユークリッドの互除法によって2つの数の最大公約数を求め、不定方程式の1つの整数解を求められるようにする。2進法で表された数を 10 進法に直し、また、その逆をできるようにする。		
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	場合の数の性質、図形の性質と確率について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	理 科		科 目	生物基礎	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新編 生物基礎（数研出版）				
副教材（出版社）		スタディアップノート 生物基礎（数研出版）				
授業の概要		教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	序章 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき		・生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解する。 ・生物の共通性と多様性について学習し、細胞の構造や呼吸、光合成について理解を深める。 ・遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝情報について理解を深める。 ・生命現象におけるタンパク質合成のしくみについて学習する。		
	2 学 期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第4章 植生の多様性と生態系		・多細胞動物の体液は、細胞にとっての環境（体内環境）であることを理解する。また体内環境がほぼ一定に保たれているしくみについて理解を深めながら、循環系・腎臓と肝臓の構造とはたらきや自律神経系と内分泌系、免疫のしくみについて学習する。 ・植生について、その構造や遷移について学習する。		
	3 学 期	第4章 植生の多様性と生態系		・地球上のバイオームの分布や、バイオームの種類と気温・年降水量の関係について理解する。 ・生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。また、地球レベルの環境問題を取り上げながら、自然環境の保全が大切であることを理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学習内容について理解を深め、適確に考察することができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。 実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。		簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 生物の多様性と共通性を理解し、適切に表現することができる。		身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。 実験計画に沿った観察・実験の計画を具体的に立て、予想される結果と実際の結果の検証を行うことができる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		保健体育		科 目	体 育	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート（大修館書店）					
授業の概要		心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにする。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていく。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。					
授業の目標		1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにする。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養う。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにする。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択 3 体育理論Ⅰ			・自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行う。 ・基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていく。 ・仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づく。 ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにする。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・スポーツの発祥と発展について学ぶ。		
	2 学 期	4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択 6 体育理論Ⅱ			・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開する。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・運動、スポーツの学び方について学ぶ。		
	3 学 期	7 陸上競技（長距離走） 男子 5000m と女子 3000m の記録測定 8 体育理論Ⅲ			・ペースを調整しながら長い距離を走ることによって体力を高め、自己記録を更新できるように挑戦する。 ・運動、スポーツの学び方について学ぶ。		
	観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。		自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。		体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。 自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。			
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		保健体育		科 目	保 健	単位数	1
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート（大修館書店）					
授業の概要		保健の見方・考え方を働かせながら、合理的、計画的な学習過程を通して、日頃の生活の中で自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための実践力を身に付ける。					
授業の目標		1 自他や社会の健康・安全のための課題を解決するために、思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 2 健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	3 生涯を通じる健康 （1）ライフステージと健康 （2）思春期と健康 （3）性意識と性行動の選択 （4）妊娠・出産と健康 （5）避妊法と人工妊娠中絶 （6）結婚生活と健康 （7）中高年期と健康			・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりが関わっていることについて理解する。 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。		
	2 学 期	（8）働くことと健康 （9）労働災害と健康 （10）健康的な職業生活 4 健康を支える環境づくり （1）大気汚染と健康 （2）水質汚濁、土壌汚染と健康 （3）環境と健康にかかわる対策 （4）ごみの処理と上下水道の整備 （5）食品の安全性 （6）食品衛生にかかわる活動			・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理や安全管理をする必要があることを理解する。 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること、その防止や改善のための対策をとる必要があること、また環境衛生活動のしくみについて理解する。 ・食品の安全性を確保することの重要性や食品衛生活動のしくみについて理解する。		
	3 学 期	（7）保健サービスとその活用 （8）医療サービスとその活用 （9）医薬品の制度とその活用 （10）さまざまな保健活動や社会的対策 （11）健康に関する環境づくりと社会参加			・保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することや、医薬品の特性や使用方法について理解する。 ・健康を支える環境づくりについての課題を発見し、その解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。		
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。			健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	外 国 語		科 目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科B類型・地域ビジネス科		
教科書（出版社）		BIG DIPPER English Communication II（数研出版）				
副教材（出版社）		Blossom 2（文英堂）、全商英語検定試験問題集 1 級・2 級（実教出版）、英単語ターゲット 1200（旺文社）				
授業の概要		1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	Lesson1 Why Don't You Come to School in Pajamas? Lesson2 Is Seeing Believing? Lesson3 Do You Get Enough Sleep? Lesson4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? 学習内容についての問題演習		・高校 1 年生で既習の文法事項を復習しながら、海外のユニークな学校行事や芸術、睡眠についてなど、比較的身近な題材を通して必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動につなげる。 ・受動態、関係詞、完了形、仮定法過去、SVO（O=wh-節）、SVO ₁ O ₂ （O ₂ =that 節）を理解する。		
	2 学 期	Lesson5 Universal Design: Convenient for All Lesson6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer Lesson7 Learning from Nature Lesson8 The Wisdom of Preserving Food 学習内容についての問題演習		・新出の文法事項や表現を学習しながら、社会福祉や技術革新、食文化などさまざまなテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・仮定法過去完了、分詞構文、進行形の受動態、SVC（C= 分詞）、SVOC（V= 使役動詞、C= 分詞）、未来進行形、完了形の不定詞 などを理解する。		
	3 学 期	Lesson9 The Sharing Economy: Something for Everyone? Lesson10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 学習内容についての問題演習		・新出の文法事項や表現を学習しながら、経済や環境などの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに意見を交換し合う。 ・未来完了、無生物主語構文、複合関係代名詞、SVC（C=that 節）などを理解する。		
	観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		語彙や文法を理解して、本文の内容を読み取る技能を身に付けている。また、本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。		本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、ペアで話し合ったり、ある程度まとまった分量の英文を書いたりしている。		英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	外 国 語		科 目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	5
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		BIG DIPPER English Communication II（数研出版）				
副教材（出版社）		Blossom 3（文英堂）、BIG DIPPER E・G 21 ステージ（数研出版）、チャート式BIG DIPPER 高校英語（数研出版）、全商英語検定試験問題集 1・2 級（実教出版）、英単語ターゲット 1400（旺文社）				
授業の概要		1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	Lesson1 Why Don't You Come to School in Pajamas? Lesson2 Is Seeing Believing? Lesson3 Do You Get Enough Sleep? Lesson4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? 学習内容についての問題演習		・高校1年生で既習の文法事項を復習しながら、海外のユニークな学校行事や芸術、睡眠についてなど、比較的身近な題材を通して必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動につなげる。 ・受動態、関係詞、完了形、仮定法過去、SVO（O=wh-節）、SVO ₁ O ₂ （O ₂ =that 節）などを理解する。		
		2 学 期	Lesson5 Universal Design: Convenient for All Lesson6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer Lesson7 Learning from Nature Lesson8 The Wisdom of Preserving Food 学習内容についての問題演習		・新出の文法事項や表現を学習しながら、社会福祉や技術革新、食文化などさまざまなテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・仮定法過去完了、分詞構文、進行形の受動態、SVC（C= 分詞）、SVOC（V= 使役動詞、C= 分詞）、未来進行形、完了形の不定詞などを理解する。	
	3 学 期		Lesson9 The Sharing Economy: Something for Everyone? Lesson10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 学習内容についての問題演習		・新出の文法事項や表現を学習しながら、経済や環境などの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに意見を交換し合う。 ・未来完了、無生物主語構文、複合関係代名詞、SVC（C=that 節）などを理解する。	
		観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現	
	語彙や文法を理解して、本文の内容を読み取る技能を身に付けている。また、本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。		本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、ペアで話し合ったり、ある程度まとまった分量の英文を書いたりしている。		英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2		
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科				
教科書(出版社)	家庭総合 ～自立・共生・創造～ (東京書籍)						
副教材(出版社)	家庭科ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)						
授業の概要	「人の一生と家族・家庭及び福祉」「衣食住の生活の科学と文化」「持続可能な消費生活・環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の4項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に関連を図りながら学習する。						
授業の目標	1 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、衣生活、消費生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。						
年間学習計画		学習内容(単元・項目)		学習目標			
	1学期	○高校の家庭科について 第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第9章 経済生活を営む ○ホームプロジェクトについて		・家庭科で何をどのように学ぶか、学習活動について知る。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめる。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族・家庭の基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 ・家事・職業労働の特徴からワークライフバランスを考える。 ・家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・消費者の権利と責任を理解する。 ・持続可能な生活について考える。 ・ホームプロジェクトの計画			
		2学期	第7章 衣生活をつくる		・ホームプロジェクトの発表 ・平面構成と立体構成の違いを学ぶ ・被服製作の基本事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ・被服の様々な役割を理解する。 ・被服材料の特徴を理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化を学ぶ。		
			3学期	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第10章 持続可能な生活を営む		・出産前後の健康管理と子どもの発達の様子・発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的生活習慣の形成、健康管理について学ぶ。 ・愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の特徴を知り、個人差が大きいことを理解する。 ・社会保障の考え方について理解する。 ・家庭生活と地域福祉について理解する。 ・身近な生活と環境との関わりについて理解する。	
	観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度	
		生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	ビジネス・マネジメント	単位数	2
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科、商業科		
教科書（出版社）		ビジネス・マネジメント（実教出版）				
副教材（出版社）		ビジネス・マネジメント 準拠問題集（実教出版）				
授業の概要		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。				
授業の目標		1 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を理解し、合理的・創造的に解決する力を養う。 3 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 ビジネスの創造 第2章 ビジネスの組織化		・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 ・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造について理解する。 ・組織のマネジメントについて、企業における事例と関連付けて考える。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案する。		
	2 学 期	第3章 経営資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革		・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案する。 ・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解し、科学的な根拠に基づいてビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理する力を身に付ける。		
	3 学 期	第5章 ビジネスと社会		・企業の秩序と責任について理解する。 ・学習してきた内容を踏まえたうえで、新規事業について計画する力を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役立つマネジメントに関する知識を身に付けている。		ビジネスにおけるマネジメントの知識を活用し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向やマネジメントの理論、企業の事例などの科学的な根拠に基づいて課題を解決しようと考えている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び、組織の一員として自己の役割を認識したうえで経営資源のマネジメントや新たなビジネスの創造と展開に責任をもって取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	財務会計 I	単位数	2
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科 B 類型		
教科書（出版社）		新財務会計 I （実教出版）				
副教材（出版社）		完全段階式標準検定簿記問題集 2 級・会計（東京法令出版）				
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標	
	1 学 期	第 1 編 財務会計の基礎 第 1 章 企業と会計 第 2 章 企業会計制度と会計法規 第 2 編 貸借対照表 第 3 章 貸借対照表のあらまし 第 4 章 資産の意味・分類・評価 第 5 章 流動資産 part1 当座預金 第 6 章 流動資産 part2 棚卸資産・その他の流動資産 第 7 章 固定資産 part1 有形固定資産 第 8 章 固定資産 part2 無形固定資産 第 9 章 固定資産 part3 投資その他の資産			・利害関係者への適正な会計情報の提供及び、提供された会計情報の活用を行えるようにする。 ・企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準について学び、財務会計の概要について理解する。 ・棚卸資産とその他の流動資産の意味を理解し、棚卸資産の期末評価の種類と方法について説明ができるように知識や技術を習得する。	
	2 学 期	第 10 章 負債の意味と分類 第 11 章 流動負債 第 12 章 固定負債 第 13 章 純資産の意味と分類 第 14 章 資本金 第 15 章 資本剰余金 第 16 章 利益剰余金 第 17 章 自己株式 第 18 章 新株予約権 第 19 章 貸借対照表の作成 第 3 編 損益計算書 第 20 章 損益計算書のあらまし 第 21 章 損益計算の意味と基準			・流動負債の意味を理解し、適切な会計処理ができるような知識や技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。	
	3 学 期	第 22 章 売上高 第 23 章 売上原価、販売費および一般管理費 第 24 章 営業外収益・営業外費用 第 25 章 特別利益・特別損失 第 26 章 損益計算書の作成 第 27 章 その他の財務諸表 第 4 編 その他の会計処理 第 28 章 役務収益・役務原価 第 29 章 外貨建取引 第 30 章 税効果会計			・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・役務収益と役務原価の意味や収益認識の基礎について学び、適切な会計処理ができる知識と技術を習得する。	
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	会計情報を利害関係者に提供する能力や態度を養い、提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い情報を提供するなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	原価計算	単位数	3	
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科B類型			
教科書（出版社）		原価計算（東京法令出版）					
副教材（出版社）		最新段階式簿記検定問題集全商1級原価計算（実教出版）					
授業の概要		製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。					
授業の目標		1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標			
	1 学 期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念 第2章 原価計算の特色としくみ 第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算 第2章 労務費の計算 第3章 経費の計算 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算と製造間接費の計算 第2章 部門別個別原価計算		・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。			
		2 学 期	第3章 総合原価計算 第Ⅳ編 内部会計 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算 第Ⅴ編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き 第2章 原価差異の原因別分析 第Ⅵ編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第2章 短期利益計画への活用		・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画について学び、直接原価計算の有用性について理解する。		
	3 学 期		総合演習 発展的な内容		・原価計算の知識と技術の定着を図る。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身に付いている。		原価計算に関する様々な知識、技術などを活用し、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて、工夫してより良く企業や社会の課題に対応する力が身に付いている。		他者と信頼関係を構築して積極的ににかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身についている。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	ソフトウェア活用	単位数	3
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科		
教科書（出版社）		ソフトウェア活用（実教出版）				
副教材（出版社）		情報処理検定模擬試験問題集（ビジネス情報１級）（実教出版）				
授業の概要		企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウェアを活用することが必要不可欠となっていることから、活用するために必要な能力・態度を身に付ける。				
授業の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第１章 企業活動とソフトウェアの活用		・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考え、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。		
		第２章 情報通信ネットワークの活用		・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用する機器類の基礎的な利用方法や、障害等に対処するための基本的な技術を身に付ける。		
		第３章 表計算ソフトウェアの活用		・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。		
	2 学 期	第４章 データベースソフトウェアの活用		・リレーショナルデータベースの特徴や基本的な機能を理解するとともに、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。		
第５章 業務処理用ソフトウェアの活用		・それぞれの業務処理用ソフトウェアを活用することの利点と、各ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。				
3 学 期	第６章 情報システムの開発		・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即死して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。			
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	企業活動におけるソフトウェアの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な子根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を課改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに１００点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	プログラミング	単位数	2
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科B類型		
教科書（出版社）		プログラミング（東京法令出版）				
副教材（出版社）		全商 情報処理検定模擬試験問題集（プログラミング1級）（実教出版）				
授業の概要		ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、プログラムと情報システムの開発に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことで、組織の一員としての役割を果たす能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 プログラムと情報システムの開発について実務に即した体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づき創造的に解決する力を身に付ける。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第4章 手続き型のプログラミング 第4節 配列の利用 第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システムの開発手順とシステムの開発		・配列を利用した各種のプログラミング技法を身に付けるとともに、マクロ言語によるプログラムで実装する方法を理解する。 ・情報システム開発の手順の全体像を理解し、テストの流れと開発手法について特徴を理解する。		
	2 学 期	第2節 プロジェクト管理 第3節 情報システムの評価と改善 第4節 情報システム開発と法規 第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習②		・プロジェクトを成功させるためのプロジェクト管理の意義及びプロセスについて理解するとともに、具体的な手法を理解する。 ・情報システムを正しく評価する意義・手法を理解させるとともに、システム使用外の対策について理解する。 ・ソフトウェアにかかる著作権とライセンス管理について理解する。また、セキュリティ管理の意義と法規について理解する。 ・これまで学習した各種知識を活用し、実際に売上集計システムやワークシートを活用したシステムが開発できるようにする。		
	3 学 期	第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発		・携帯型情報通信機器用ソフトウェアの特徴、及びオブジェクト型言語の特徴を理解する。 ・UMLの内容と特徴について理解する。 ・J a v aの変数の使い方を理解し、各種命令文の意味と利用方法を雌雄得することで、アプリ画面を作成する方法を理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けている。		プログラミングをはじめとしたさまざまな知識、技術を活用して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見しようとしている。また、最適な解を導き出し、よりよく解決するための力を身に付けている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識し当事者としての意識を持つことで、積極的にかかわる態度を身に付けている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	プログラミング	単位数	3
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		プログラミング（東京法令出版）				
副教材（出版社）		全商 情報処理検定模擬試験問題集（プログラミング1級）（実教出版）				
授業の概要		ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、プログラムと情報システムの開発に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことで、組織の一員としての役割を果たす能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 プログラムと情報システムの開発について実務に即した体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づき創造的に解決する力を身に付ける。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第4章 手続き型のプログラミング 第4節 配列の利用 第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システムの開発手順とシステムの開発		・配列を利用した各種のプログラミング技法を身に付けるとともに、マクロ言語によるプログラムで実装する方法を理解する。 ・情報システム開発の手順の全体像を理解し、テストの流れと開発手法について特徴を理解する。		
	2 学 期	第2節 プロジェクト管理 第3節 情報システムの評価と改善 第4節 情報システム開発と法規 第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習②		・プロジェクトを成功させるためのプロジェクト管理の意義及びプロセスについて理解するとともに、具体的な手法を理解する。 ・情報システムを正しく評価する意義・手法を理解させるとともに、システム使用外の対策について理解する。 ・ソフトウェアにかかる著作権とライセンス管理について理解する。また、セキュリティ管理の意義と法規について理解する。 ・これまで学習した各種知識を活用し、実際に売上集計システムやワークシートを活用したシステムが開発できるようにする。		
	3 学 期	第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発		・携帯型情報通信機器用ソフトウェアの特徴、及びオブジェクト型言語の特徴を理解する。 ・UMLの内容と特徴について理解する。 ・J a v aの変数の使い方を理解し、各種命令文の意味と利用方法を雌雄得することで、アプリ画面を作成する方法を理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けている。		プログラミングをはじめとしたさまざまな知識、技術を活用して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見しようとしている。また、最適な解を導き出し、よりよく解決するための力を身に付けている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識し当事者としての意識を持つことで、積極的にかかわる態度を身に付けている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					